

幼稚園児の成長

— 母親の記録より —

はじめに

最近幼児教育とか、早期教育とかいうように、幼稚園教育の普及は著しくなりました。親の教育への関心が高まったこともあり、都会では、子どもの自由な遊び場がなくなり、また家族構成が小単位になり、一人っ子とか、年齢の離れたきょうだいはいないため家の中に遊び友だちがないのです。

そこで、できるだけ幼稚園へ、そして一年保育より二年保育が最も望まれるようになってきています。私のところにも六歳の長女と五歳の長男が近くの幼稚園に通っています。各々の子どもの条件に合わせて長女は一年保育、長男は二年保育にしてみました。が、幼児の身心の発達を促進するために幼稚園教育の必要性を痛感しています。

梅 沢 春 代



どのように子どもたちが幼稚園を通して成長しつつあるかを長女の成長を、一人の母親の立場から観察したことを書いてみたいと思います。

三人の子ども

幼稚園に通う二人の下に二歳九か月の次女がいます。家の中で三人が遊ぶ時、必ず次女がどちらかに従うことでけんかが起こります。長女と次女が仲間になることがほとんどですが、時には長女と長男がけんかして長女が泣き出すと「ねえ、いっちゃん」といって長男についてしまいます。お互いに年齢が近いことで三人の間のけんかは絶えず起こりますが、遊び仲間としてもよく遊びます。長女は平凡な子として順調な発達をしています。が、一年四か月で弟が生まれ、いつも姉の立場で弟、妹の世話をしてきたた

めでしょうか、母親にとつて、あまりにもよい子になりすぎてい
るようです。

満四歳の頃

四月十一日

玲子の四歳のお誕生日です。妹が三月に生まれ二人のお姉さん
になったことを、お友だちにとても自慢にしています。すっかり
姉さん気どりで自分の洋服や靴下が汚れるとタンスから出して着
替えています。妹が泣くとハンモックをゆすってあげたり、おし
めを持ってきたり、とてもよくお手伝いします。母親のいいつけ
はよく守りますし、とても素直になりました。何事も自分が先に
ならないとおもしろくないようです。今日もお友だちとブランコ
に乗って遊んでいましたが、先に乗ってしまうと「モウ、ヤメ
タ」といって知らん顔をしています。みんなが降りてしまうと玲
子が一番先に乗って「はい、バスが出ますから乗って下さい」こ
んな調子で遊んでいます。弟が盛んに姉の機嫌をとって「お姉ち
ゃん、はい、これ」とハンドバッグやかごを持っていきます。

六月十九日

梅雨空のあい間を見て父親と一しょに近くの小川へ「ぎりが
に」取りに出かけました。十センチ以上の大きなぎりがを二十
匹位バケツに入れて帰りました。グロテスクに動いているのを見

て、めずらしそうに奇声を発して騒いでいます。手を出したり引
っこめたり、子どもたちのこんなに嬉しそうな顔は初めてです。

八月六日

近所の友子ちゃんが小さい時からの仲良しです。今日は清水の
港祭りのおみやげにかわいいお人形を玲子に下さいました。「お
人形さんのお洋服作ってね」とのことで簡単に縫って着せてあげ
ました。夕方友子ちゃんが、すてきな指輪をしてくれました。早速
玲子が見つけて「ソノ指輪ドウシタノ」とたずねています。

清水で買ったことを話すと、「玲子ちゃんにも買ってきて
ね」「だって、さっきお人形さんあげたでしょ」

「あんな、小さなお人形いらぬから指輪の方がいいわ、あのお
人形、手のところも壊れかかっているから返してあげる、指輪に
してね。友子ちゃんも指輪の方がいいでしょ。どうして、玲子に
へんなお人形買ってきて、指輪買ってくれないの」と盛んに問い
つめています。側から母親が、「玲子ちゃん、せっかく買ってき
て下さったのだから、ありがとうをいっていただきましうね」
というど、「それでは、どうもありがとう」

「あら、友子ちゃん、どういたしましていわないの」とも積極
的で、はつきりしすぎているくらいです。

三月二十三日

昨年のクリスマスにいただいた「いろは文字遊び」で急速に文

字に興味をもち始めました。朝目が覚めると、お布団の中に用意しておいたノートと鉛筆を取り出して、盛んに字を書く練習をしています。もう平仮名は、上手に書けるようになりました。童話も熱心に読んでいます。

満五歳の頃

四月十一日

お誕生日のお祝いにスケッチブックと六色のサインペンをあげました。王子さま、お姫さま、コックさん……いろいろなものをサインペンで書いては缺で切りぬいています。近所のお友だちが幼稚園に行つてしまいました。「玲子は、一年保育だから、まだ行かない」とお友だちにもはっきり話していましたが、さて、お友だちがいなくなってしまうときびしいのでしょうか、「玲子、一年ではいろいろなことがおぼえられないから、幼稚園に行きたい」とせがみます。仲良しの友子ちゃんは全然遊びにこなくなっていました。

今日もお誕生日のことを知らせに友子ちゃんのところに出かけて行き、すぐ、つまらなそうな顔をして帰ってきました。

「おかあさん、幼稚園に行っていないと、五歳になれないの、友子ちゃんが、そんなこといったよ」とも積極的な子で、誰とでもすぐお友だちになって遊ぶこともできますし、ここで玲子が幼

稚園に行ってしまうと弟の遊び友だちが、一歳の妹一人になつてしまうので、なるべく一年先へと思つていましたが……一か月玲子の様子を見てから通園させることにしました。

五月二十三日

日がたつに従つて、あまり幼稚園のことを話さなくなりました。外とのお友だちがいなくなつてしまつたためか、テレビに熱中しています。午前九時半頃から、あちらこちらとチャンネルを廻して子どもの時間をさがしています。午前中は、テレビの前に座つたまま動きません。「外で遊びなさい」と口うるさく注意しても家の中で本を読んだり、絵をかいて、なかなか出かけません。どうしたわけか、とても泣き虫で困ります。母親がちょっと留守にしても、玲子の方が、きつと泣いています。「すぐ帰るから待つていなさいね」というと弟は「待つていてあげる」とすぐ承知するのに玲子は「イヤイヤ」で母親の後を追ってきます。今まであれ程、お姉さんぶりを発揮していたのに、急にどうしたことでしょうか。

六月十五日

弟の方は、遠くへ一人で出かけて行つて、お友だちをみつけて遊んでいます。玲子は、相変らず外へ出たがりません。何とか外で遊ばせたいと思つて二輪車を買つてあげました。

一週間ぐらひは、とても熱心に乗りまわしていましたが、しば

らくすると、「あそこが工合悪い、ここが工合悪い」と文句をつけて乗りません。そのためか食事が思うように進まず、食事の度に叱られながら、ようやくお箸を運ぶしまつです。

九月十八日

八月二十日から昨日までの一か月間、富山の家へお手伝いに三人連れて出かけました。すっかり変わった田舎の生活に慣れず、はじめは牛犬鶏の世話をとてもこわがりましたが、そのうちに慣れてくると弟と二人で喜んで餌をあげていました。田んぼの中を真黒になって走りまわり、蛙をたくさんつかまえて競争させたり、わらの束でかくれ家を作ったり、板を田んぼの畦にのせて、シーソー遊びをしています。裏の畠に野菜を取りに行ったり、荷車の後押しをしたり、おやつを運んだり、猫の手も借りたい稲刈りの忙しい時には、本当にたすかりました。道路は、耕耘機が四つ五回通るくらいですから、この交通戦争の時代に、全く解放されて、のんびりした生活でした。玲子の体を鍛えるためには、本当によい一か月でした。

アルバイトでお手伝いに来ていた東京の学生のカクさんと大の仲良しになりました。朝五時に起きて裏の海岸へ一時間位魚つりに出かけます。大波に襲われてずぶぬれで泣きながら帰ったこともありましたが、朝出かけるのを楽しみにしていました。夕方仕事が終わって帰ると、みんなの背中に登ったり、相撲をとって大

変なにぎやかさでした。

九月二十五日

カクさんにお手紙を書きました。玲子の最初の手紙です。

「かくさん、げんきですか、れいこわけんきです。おべんきょうしていますか、あそびにきてください。いっちゃんときあちゃんとみんな、あそんでいます、さようなら

かくさんへ

れいこより」

十月八日

富山行きがよかったようです。外へ出たがらなかった玲子でしたが、帰宅して以来弟と二人で網とバケツを持って近くの小川へ魚とりに出かけて行きます。

十二月一日

近くの幼稚園へ入園のことで相談に出かけました。どこも一年保育は受け付けないとのことで、困ってしまいました。遠方へ小さな子をバスで通わせるのも心配ですし、できれば、知っているお友だちのたくさんいる近くの幼稚園へと思つて無理にお願いして途中入園で来年一月から入れていただくことに決まりました。

幼稚園に行く嬉しさはかくしきれません。「玲子、幼稚園に行くから遊ばないでたくさんお手伝いしてあげるね」と張り切つて洗濯、お掃除を手伝いました。「幼稚園に遅れないように、サンタクロースが目覚し時計を持ってきてくれないかしら」といって

ます。

夜は「幼稚園に行くから」といって自分の洋服はきちんとたたくんで枕もとに置いて寝ます。

「あそび」の本に書かれていたおまるつけを見つけて、母親に表を作らせました。

七時に起きる	
八時に寝る	
あいさつ おはよう おやすみ	
はみがき あさ よる	
ひとりで洋服を着る	
のこさないで食べる	

毎日熱心に○をつけています。表がいっぱいになるとまた新しいのを作らせて、今三枚目になっていますが、とりたててごほうびを欲しがるわけでもなく○をつけて満足しています。

幼稚園生活

一月十日

今日から新しいかばんと園服で出かけました。仲良しの友子ち

ゃんが、まず玲子の顔を見つけて走ってきました。「いろいろなこと教えてあげるね、手をつないで行こうか」ようやく、これでお友だちと対等になれた嬉しそうな表情で母親の側に寄りそっています。

前日、先生のところへ伺った際、「一人でかまいませんから幼稚園のバスに乗せて下さい」とのお話でしたので、友子ちゃんの後についてバスに乗りましたが、心配そうな顔で手を振っていました。十一時半帰宅とのことでしたが、何一つ手につきませんので、一時間前から広場で帰りのバスを待ちました。

バスから降りてくるなり「友子ちゃんきてね」と約束しています。先生からお話を伺うと、「とても元気でよかったですよ。友子ちゃんが細かいことまで世話をしあげているようでした」このお話を伺ってほっとしました。

「おかあさん、幼稚園にいじめっ子がいる」母親の手を握って真剣な顔つきで話し始めました。聞いてみると牛乳を飲んでいると後から押されて牛乳がこぼれてしまったとのこと。見ると園服の前が大きなしみになっています。昼食をすませると、早速友子ちゃんが遊びに来ました。

一月十二日

三日目ですが、もう前から通っているように朝バスを待っている間いろいろなお友だちと話し合っています。今日は帰宅すると

のり子ちゃんを連れて来て家で、おままごをして遊んでいきます。夕食の時「先生に、おりこうですぬって、ほめられちゃった」と話し始めました。

聞いてみると先生のお宅の水道が今朝凍りついて水が出なくなつたので、どうしたらよいでしょうか、とのこと。「お友だちが金櫃でとんとんたたく、とか小さいシャベルで掘る、といったから、玲子お湯をかけると氷がとけるといってあげたの、この間おかあさん冷蔵庫、入れ物が凍った時、お湯かけたでしょ」得意顔で話しています。

「体操や歌、お遊戯がわからなくて幼稚園で困ることないの」と聞いてみると「玲子だんだんおぼえて、わかるようになってきたから大丈夫」と平然としています。

一月二十四日

幼稚園のお友だちがたくさんになりました。毎日四、五人の友だちを連れて来て「玲子のお友だちを紹介します」といって一人、一人の名前を教えます。鉄棒もお友だちに負けないようにと、手にまめを作って練習しているようです。寒さの厳しい毎日ですが、毎朝目覚し時計の音で飛び起きて、元気に出かけます。

二月五日

担任の菱田先生がおやめになり、二月から河村先生に代わりました。一月はお休みもせず元気に登園していましたが、昨日から

咳がひどいのでお休みさせました。

二月十二日

とうとう先週は一週間お休みしてしまいました。お休みが続くと幼稚園に行くのをとても嫌います。ようやく、なだめて送り出しました。しかし幼稚園から帰ると朝のことをすっかり忘れ去つたように、楽しそうに幼稚園のお話をしています。

二月十四日

耳が痛いといつて元気がありません。病院へ連れて行くと耳下腺炎とのこと。「痛い、痛い」で食事と思うように取れません。

二月二十日

ようやく痛みがとれて元気になりました。妹と三人で幼稚園ごっこをして遊んでいます。玲子は先生、下の二人に園服を着せ、鞆をかけて、「朝のおはじまり」から始めています。歌やお遊戯も教えたり、お行儀が悪いと叱っています。

二月二十六日

今日は月曜日ですので、幼稚園へと思っていましたのに、とうとう行きません。平常、それほど強情に通すことはないのですが、どうしても「いや」といって聞きませんので、もう一日延ばすことに約束しました。

二月二十七日

今朝は自分も観念したように仕度をして出かけました。途中入



花鳥山脈へ遠足



弟と妹



仲良い友子ちゃんと



父親につれられてつり堀へ

園ですので、三月までは幼稚園のふんい気に慣れさせるために、のんびりした気持ちでしたが、運悪く、病気で長い間お休みしたり、担任の先生が新しくなったことで、帰宅しても何となく元気がありません。

三月七日

入園した当初の意気込みもどこへやら、すっかり弱々しくなっていました。今日はお別れ遠足で、園児と先生方で、駿府公園に出かけました。十時すぎ急用ができて玲子を迎えに行きました。ちょうどお弁当を開いて食べ始めているところでしたが玲子を見ると、まだのろのろとビニールの風呂敷をしています。先生にお許しをいただいて駅へ急ぎました。「どうして行くの、児童会館で、まだ映画も見ないのよ」とふくれています。

三月二十日

お休みで、のびのびと遊んでいます。今日は幼稚園から葉書が届きました。ふじ組 水野先生と書かれています、嬉しそうに葉書を持って友だちのところに知らせに出かけました。

年長組―満六歳

四月十一日

今日から年長組のお姉さんになりました。弟も年少組に入りましたので朝、弟の支度を手伝ってあげて、弟と手をつないで出か

けました。幼稚園では時々出かけて行って弟の教室を廊下ごしにのぞいてきたらしく、帰ると「おかあさん、一郎ちゃん机の上を歩いていたわよ」とつげ口しています。

満六歳のお誕生日です。午後からお友だちを四人招待しました。早速「ぶれぜんと持ってこないの、それでは玲子の家でぶれぜんと作ってね」といって皆に画用紙をあげて絵をかかせています。にぎやかなお誕生会でした。

四月三十日

幼稚園で四月生まれの人のお誕生会がありました、首飾りをかけてお誕生カードを大事そうにかかえて来ました。「玲子は、大きくなったら、お菓子がたくさん食べられるように、お菓子屋さんになりたい」とカードに書かれていました。

五月十五日

家庭訪問で担任の先生がお見えになりました。年少組の時の弱々しい態度が心配でしたので何ってみました。

「とても積極的で、先生のお手伝いもよくしますし、しっかりしていて何一つ申し上げることはありません」とのお話で安心しました。不用になった包装紙を箱に入れておくと、それで靴や冠を一人一人に作っています。足の大きさに合わせて、「お母さんのはかかとの高いのにしてあげる」といってハイヒールを持ってきました。そっと片足ずつ入れてみました。なかなか独創的で、お

もしろいです。

六月二十日

幼稚園でごっこ遊びが盛んに行なわれているようです。小さな紙を切って

10
100
500

 …と五千円までのお金をたくさん作りました。「おかあさんご飯いくら」「はい、それでは五百円」といって紙のお金を持ってきます。幼稚園が楽しくてたまらないようです。「幼稚園絶対休まない」と張り切っています。

母親が遠方に出かけて留守の時は、預けた鍵で玄関を開けて、二人で帰るまで留守番しています。

七月二十日

いよいよ夏休みです。一学期の間、弟が病気がちでしたので、「体を鍛えること」を目標にしました。六時半からラジオ体操が行なわれますので、六時起床として、幼稚園からいただいた計画表に従ってスタートしました。

八月八日

昨日から幼稚園で合宿が行なわれ、今朝無事帰宅しました。はじめての合宿生活でしたが疲れも見せず、プールで泳いだこと、西瓜割り、キャンプファイヤーのこと、お友だちと一しょに食事をしたことも感激だったようです。

「一郎ちゃんも大きな組になったら、幼稚園に泊りに行かれるわよ」自慢顔です。プールで泳いだためでしょうか、右目のまぶ

たが赤くふくれています。

八月二十四日

秋の稲刈のお手伝いに富山へ出かけることになりましたが、玲子の治療が終わりませんので、裾野のおばあちゃんの家へ弟と二人お願いすることにしました。静岡駅につくといつも嬉しそうに、はしゃぎまわる二人ですのに不安顔でじっと椅子にかけています。「おかあさん、何日に帰るの」心配そうに何回となくたずねます。おばあちゃんの家には、二人と同年齢のいとこの仁美ちゃん、慎ちゃんがいますので、一しょに遊ぶことによって、さびしさをまぎらすことができると思います。二人をお願いして、次女を連れて富山へ向かいました。

九月八日

幼稚園が一日から始まりましたので、とても気がかりでしたが、ようやく稲刈りが終わりましたので、今日は飛び立つように帰宅しました。「あっ、さーちゃんが帰ってきた」嬉しそうに妹を抱いて家の中を走りまわっています。しばらく見ない間に顔つきが変わったような気がしました。裾野では、最初の一週間子どもたちの気持が落ちつかず、弟がすぐけんかを始めて、とても困ったようです。でも慣れてくると、お互いに気心がわかってとても良いお友だちになりましたとのお話でした。

九月二十五日

静岡に帰ってから、裾野の仁美ちゃんに連日のように手紙を書いて出しています。便箋一枚に、幼稚園のこと、お友だちのことを書いていますが、とうとう一式買い求めた便箋と封筒がなくなっていました。

十一月二十六日

幼稚園の生活発表会です。「夕焼けこやけ」の歌の伴奏をするので、前々から張り切って練習しています。ピアノのおけいこも夏休みから、少しずつ始めたばかりですので、選ばれてひくことは、とても無理と思っていました。帰宅すると早速練習が始まります。おやつも見向きもしませんし、二〜三時間平然として練習しています。夕方、指が痛くて動かなくなりました。いいながら手をぶらぶらさせて、ようやくピアノの前から離れます。今日は無事、発表会が終わり、ほっといたしました。

十二月十日

入学を控えて、今日は小学校でジフテリアと百日咳の予防注射がありました、一年生の教室で順番を待つ間も、教室の中をめずらしそうに眺めています。「黒板のところを右、左が書いてあるね」「玲子ちゃんも、もう少ししたら、ここでお勉強するのよ、嬉しいでしょう」少し緊張した顔つきで、また熱心に見ています。

母の反省

満四歳からの記録を、そのまま書いてみました。近所の方からは、「とてもしっかりしていて、よいお子さんですね」とよくほめられるのですが、幼稚園に入れてみて、必ずしもそうでない面がでてきました。参観日に行ってみると、工作の時間に何回となく先生のところに、相談しに行く姿、運動会の時、エプロン掛けの競争で、お隣の子と同じエプロンを二人で拾って、引きあっている姿、家庭では見られない子どもの態度をみて大いに反省させられました。依頼心が強く、融通性に欠けることの原因は、母親がいつも側について、手を出しすぎることで、途中入園で自信をなくしたことにも原因しているのではないのでしょうか。

幼稚園に入れようか、どうしようか、年限はどうしたらよいかということが、いつも問題になります。幼稚園はその子、その子に適したように活用すればよいと安易に考えていましたが、現在のように幼稚園の二年保育があたりか当然のようになっていきました。やはり途中入園ということが非常にむずかしくなっていました。一般の親たちが、義務教育の一環として幼稚園を学校のようにみているために、いわゆる熱心に読み書きを教える幼稚園、優秀校への入学率の良い幼稚園に人気が集まります。もっと、のんびりした気持で、子どもたちに社会生活を学ばせるのに適した幼稚園が多くなることを希望いたします。